

群馬経済の現状と先行き

日本銀行前橋支店

支店長 **渡辺 真吾**



残暑お見舞い申し上げます。平素は日本銀行前橋支店の業務に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

群馬経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から、引き続き厳しい状態にあります。基調としては持ち直しているとみています。

自動車関連の生産は、半導体不足の影響から減少していますが、世界的なデジタル需要の拡大や設備投資の回復を背景に、県内でも電子部品や機械類の生産が増加しています。このため、鉱工業生産は、振れを伴いながらも増加しています。県内企業の今年度の事業計画を企業短期経済観測調査（短観）でみると、生産の増加もあって、増収増益が見込まれています。また、業況感についても、短観の業況判断D.I.（全産業、「良い」－「悪い」）は、6月調査まで4期連続で改善しました。こうしたもとで、県内企業の今年度の設備投資計画は、短観でみて前年度比2割を超える増加となっています。内容としては、電子部品の能力増強投資や物流施設の建設など需要拡大を受けた案件のほか、感染症の流行により昨年度から先送りされた案件がみられています。

個人消費は、基調としては徐々に持ち直していますが、一部のサービス消費で下押し圧力が強い状態にあります。県内温泉地の宿泊客数は、感染症の流行継続から、大幅に減少した状態が

続いており、飲食店における客足の回復ペースも緩やかです。この間、家電販売は、巣ごもり需要が一巡しつつあることから、増勢が鈍化しているとみられますが、スーパーでは、巣ごもり需要の継続を背景に、売上が増加しています。自動車販売は、半導体不足による供給制約から、一時的に減少しているとみられます。

先行きの群馬経済については、回復傾向を辿るとみています。半導体不足の影響が緩和していくこともあって、生産が引き続き増加するとともに、ワクチン接種の進捗により感染症の影響が和らぐもとで、個人消費も、宿泊や飲食といった対面型サービス消費を含め、回復していくと考えられます。感染症の帰趨を巡る不確実性は依然大きいものの、リスクバランスは、ワクチンの普及が加速するもとで、下振れリスクが大きい状態から、上下にバランスする方向に変化してきています。年末にかけては、景気回復の足取りがしっかりしていくことを期待しています。